

日本ボストン会会報

発行所 日本ボストン会事務局 ②27-0045横浜市青葉区若草台8-28 Fax045-962-0866

「第九」メドフォード公演

「第九」メドフォード公演実行委員会事務局長 渡辺 行守

2000年8月24日(木)、私達の10年来の夢であった「第九」メドフォード公演が、マサチューセッツ州メドフォード市のタフツ大学コーエンオーディトリウムで行われました。

これはミレニアム年が、のべおか「第九」を歌う会の15周年、延岡フィルハーモニー管弦楽団の10周年、それに延岡市(宮崎県)とメドフォード市が姉妹都市締結をして20周年にあたるのを記念して、音楽を通じた文化交流を目的とし、メドフォード市でベートーベンの「第九」を演奏しようというものでした。参加者はオーケストラと合唱団、それにサポーターを含め総勢 250名という大デレゲーションとなりました。8月21日大訪問団は、ミネアポリス経由でボストン入りをしました。

ボストンは歴史を感じさせる建物やボストンコモンに代表されるような緑あふれるところでした。その緑に赤レンガの壁がよく似合う都市で、皆すぐに気に入った様でした。

翌日のメドフォード高校での記念式典とウエルカムパーティーも、音楽とダンス、延岡の盆踊りなどで大いに盛り上がり、素晴らしい交流が出来ました。

さて公演当日、開演1時間位前から聴衆が集まり始め、開演前には満席となりました。公演はまず、今回の演奏会のために作った「遙かなる幻影」という延岡の風景をイメージした曲の演奏が始まりました。休憩の後、「第九」の演奏がはじまり、オーケストラと合唱団は心を一にした演奏を行いました。

第4楽章での合唱が終わると、一瞬の静寂の後で、会場からブラボーの声とスタンディングオベーションによる歓声が会場内に響き渡りました。今回の訪問の目的がまさにこの一瞬に凝縮されていました。民間主体のこの大デレゲーションがこのような形で成功できたことは、一人一人の努力と団結、そして現地の方々の惜しみない協力があっての賜物だと思います。

今回の演奏旅行ではボストン総領事の山本忠通総領事をはじめ、ボストン日本人会の小久保武会長、望月典子さん、寺田耕三さん、日本語学校の森上祐治校長。タフツ大学のバーバラさん、メドフォード高校のロイ教育長、マーシャさん。アサヒアメリカのボブ・ルイスさん、数え上げたらきりがなほど多くの方にお世話になりました。感謝申し上げます。

昨年はアメリカにとっても、世界にとっても悲しい事件がありました。ベートーベンが作曲したこの交響楽「第九」は世界の平和と人類愛を歌い上げたものですが、この気持ちがある限り、必ず世界は平和になると思います。

メドフォード市と延岡市の交流は高校生の交換留学生制度という形で続いています。今年はこの公演でソリストを務めていただいた現地の4人のソリストにきていただき、「第九」の演奏会をすることが決まり、広がりを見せています。これからも交流がさらに広がって行くことと思います。ボストンは将来、もう一度訪れてみたいところになりました。

日本ボストン会 イベント

観桜会(千鳥が淵) 3月31日(日)

親睦ゴルフ会(泉カントリー倶楽部)
4月11日(木)

10月17日(木)

歴史を飲もう会(札幌訪問) 7月13~14日

ハイキング 5月19日(日)

総会 11月15日(金)

会報#20号(原稿締切8月末)10月中旬発行予定